令和５年度第１回美しい宮崎づくり推進有識者会議　議事要旨

１　日時
令和５年８月３日（木）９時００分から１２時００分

２　場所
県庁７号館４階７４４号室

３　出席委員（１１名）※敬称略

議長	関西　剛康	委員	根岸　裕孝	委員	三穂　貴秀
委員	鶴田　安彦	委員	柴田　志摩子	委員	谷越　衣久子
委員	永井　佐代子	委員	日髙　茂信	委員	福永　栄子
委員	若松　正樹	委員	後藤　章二		

（欠席）委員　中嶋　敬介

４　議事等
【議事 1】美しい宮崎づくり推進計画に基づく令和４年度における各施策の取組状況に対する評価・検証（資料６、資料７、参考資料１～３）
【議事 2】今後の美しい宮崎づくり推進に係る意見交換（資料８、資料９）

５　委員からの主な意見等
【議事 1】
〇根岸委員
- 道守みやざきにて、県、市町村、活動団体に参加いただき、美しい宮崎づくり推進室より、事業などの紹介をしてもらった。その際に、具体的な相談が活動団体よりあがり、県が回答をしてくれた。民間と行政が連携することが非常に重要なものだと認識しているが、こういった民間と行政が一度に集まって意見交換を行うことが大切だと改めて感じた。
- 活動団体だけでなく一般企業との連携も大事になってくると考えられる。企業それぞれで SDGs を実践しており､店先や企業の活動として積極的に取り組んでいるところもある。企業がどのように「美しい宮崎づくり」につながっていくかというのは非常に大きなテーマであると思う。
- 県と企業が関わりを持つためにサポーター制度といった制度を県に考えていただきたい。広域連携で新しい価値を作ってほしい。
- 資料の評価を見ていると悪くない状況だが、個人の感覚として、盛り上がっているのかが疑問である。全体の雰囲気として、美しい宮崎づくりを盛り上げていこうという動きはまだまだこれからではないかと感じる。そのために、新しい目標や、わかりやすい目標が必要であると考える。国スポは非常にいい目標であると思う。全国から多くの人が来ることに加えて、それに向かって身近なところ、自分たちでできるところから、活動は生まれていくと考えられる
- 具体的なイメージや戦略をしっかり持って、企業、団体、県外から来た人たちが参加しやすい県民運動を工夫しながら行ってほしい。新型コロナ感染症拡大が落ち着いた今から行うべきだと感じる。

○日髙委員

・　県民目線から見たときに、市町村において何か１つずつ光るモノがほしい。県外から来た人には、なんとなく良かったいう感覚は持ってもらえる。例えば、宮崎のここに行ってみたい、この場所でご飯を食べたいといったような感覚。これらを考えると、まだまだ光るモノが足りないのではないかと感じる。県民ひとりひとりの意識の問題もあるかもしれないが、県が中心となって、それぞれの地域で、その地域の人たちが自信を持てるものを何か１つ作っていくことで、美しい宮崎づくりの活動は伸びていくのではないかと感じている。

・　素材はいっぱいあるように感じる。その素材がそのままにされているので、ひとつずつ拾いあげていけば、光るモノは増えていくのではないかと思う。

○後藤委員

・　市の動きとして、地域の活動団体へ花の苗を配布したり、業者へ直接道具を貸したり、花の苗を植えてもらったりしている。しかし、財政状況の都合上、事業については見直しが必要だと考えている。

・　県外の事例として、福岡市は「１人１花運動」というものが展開されており、企業協賛の花壇が町中にあり、企業が手入れを行い、植栽を行っている。宮崎市でも企業連携ができないか検討しているところである。

○福永委員

・　「美しい宮崎づくり」という言葉自身がまだまだ発信不足であるように感じる。バスに花を持って乗った人には、運賃が割引されるような事例がある。

・　例えば、「美しい宮崎づくり」というフレーズが宮崎空港に行けば大きく掲げられているとすると、これは何だろうか、どんな事業をしているのだろうか、と考えてもらうことができるが、実際は、目標としている核となるものが埋もれてしまっている。美しい宮崎づくり大賞についても賞状はあるかもしれないが、受賞団体に対して、もっといろんな場所へアピールすることが必要だと感じる。もっと「美しい宮崎づくり」を発信してほしい。

○日髙委員

・　様々なものを作ったり、植栽したりすることは大切だが、県内各地で荒れ放題になっている土地が見られる。以前は近隣の住民が草刈りなどを積極的に行っていたが、やりたくてもやれない状況になってきた。作るだけではなく、取り除くということも大切になってくるのではないかと思う。

○後藤委員

・　宮崎市では、宮崎花旅３６５というものがある。これを契機にツーリズムにつなげていければと考えている。現状として、行政は情報発信が苦手であるように感じるので、発信の手段について考えていかなければならない。

○若松委員

・情報発信について、県外からの目線や外からの目線を考える必要がある。外から見られる意識を持つべき。

○三穂委員

・　県外の旅行会社やポケモン社と話をする機会があり、みなさん共通して、宮崎はきれいだと言ってもらえる。

・　情報発信のために体制強化が必要であると思う。福岡のペイペイドームでも宮崎ガーデンがあり、すばらしいなと感じた。まだまだ知られていないことが多いので発信というのは大切だと思う。

〇柴田委員

・　花の話が出ているので、その話題に関連して、ツイッターで宮崎の毎日のお花というモノがあり、毎日見るのが楽しみである。こういった情報を冊子やカレンダーなどで発信することは良いことだと思う。個人的に、ほしいと感じる。

【議事 2】

〇谷越委員

・　県外の方を案内すると宮崎はきれいと言ってもらえる。これは、道路の中央分離帯にゴミがないから、また、宮崎河川国道事務所が沿道修景に力を入れているからではないかと思う。
・　目に見える箇所の手入れが行き届いている景観が好印象になっている。県外の人から見ると誇れるモノだと思う。また、日髙委員の意見にもあったように、除却というのが大事だと思うので、今後は、除却ということにも力を入れていくべき。
・　整備を行う場所について、道路から入った場所（民間の土地）の整備というのが難しいと感じる。（国道沿いでなければ沿道修景の対象範囲でなくなるため？）
・　資金面については、花を植えることはできている。私個人の所属する団体は阻害景観を排除することが大切だと考える。国土交通省の事業制度で道路の敷地内で収益活動を行い、その収益を活動資金に充てられる制度はありがたい。
・　除却というのは市民の力だけでは難しい。例えば、草刈りのために機械がいるが、機械が手に入らない。造園業者等に機械を借りるように依頼せざる終えない状況である。また、機械を使用するにも、人件費はかからない、除却したものの集積運搬処分費用は収益でまかなっている。また、機械を借りての作業はリスクがある。機械を壊してしまったり、作業者がけがをしたりすることに対する保険が必要になる。高齢者の方や企業の方に参加していただいているが、やれることの限界はある。これらのことを前提として、どのように活動を補っていくのかが大事だと思う。協力してもらう業者がいないと活動ができない。
・　ブランド力向上のために、除却ということにも目を向けてほしい。資金が必要だけれども、県だけでなく市町村にも制度が発展していくと良いと考える。

〇根岸委員

・　団体登録数について、目標の一つにすることは良いことだと思う。団体登録数を伸ばすための戦略を示していけないといけない。
・　県だけでなく我々も考える必要がある。道守みやざきにて花を植えるためのお金がないと相談を受けた。そのときは、県・市町村がいたので、情報を伝えることができたが、こういった情報をどのように伝えるのか、事業について一般県民はどこから情報を手に入れるか。市町村がやる気にならないと意味がない。県が積極的に市町村へ働きかけを行う体制にならないと意味がないので、具体的な方針を示してほしい。

〇後藤委員

- 宮崎市としては宮崎県の事業を活用している。宮崎市は活動団体に対して、行政の制度について直接周知を行っている。
- 県に対する要望の一つに挙げさせてもらったが、一定期間の制度ではなく、継続的な事業として行ってほしい。

〇日髙委員

- 活動団体としては収益を上げることが大切。宮崎河川国道事務所の協力を得て、自動販売機を設置し、収益にしている。県が管理している国道にも、信頼のある団体に対しては安心して任せることができるのではないか。県管轄の国道沿いでも自動販売機をおけるような前向きな検討をしてほしい。制度のハードルがどうしても高く感じるので、県民が活用できるように前向きに検討していただきたい。

〇福永委員

- 中山間において、地域活動に参加したいといと思っている人は一定数いる。ただ、参加したい人と参加してほしい人がうまくかみ合っていない。ある市町村では、自治体の HP にマッチングサイトを作ろうとしている。
- 酒谷のあじさいがきれいに整備されている道路（あじさいロード）を通った時に、コロナの影響で活動ができなかったかもしれないが、手伝う人が足りない、お金が足りない、ネットワークが足りない、というのが景観から感じられた。
- おてつたびという制度というのがある。観光に特化しているが、景観に特化したマッチングサイトを作ってはどうか。地域の財源につながるような、人のつながりを生むことであったり、自動販売機など収益化できるモノを設置したり、収益（資金を得る）という仕組みを作るのはどうか。そのために、橋渡しとなるサポートできる企業も参加してもらえれば、需要と供給がバランス良くなるのではなかと思う。
- わかりやすい登録制度を作ればいいのではと感じる。企業にサポートを依頼するのは働き方改革の関係で、今の時代はなかなか難しいが、情報共有については、積極的に企業に対しても拡げていくことができる。
- 現状の県の HP では人と人とのつながりを生むようなモノがない。どの活動団体がいつ、どこで、どんな活動をしているのか、どんな手伝いがほしいのか、その活動がどのような景観につながるのか、こういった情報が見えるモノが必要ではないかと思う。
- おてつたびのように必要なところに、行きたい人が参加し、みんなが楽しめれば様々な世代と関わりが持てる。企業目線で考えると、ちょっとしたプラスになることがあれば、参加する人も増えていくのではないか。
- 今のままでは議論で終わってしまっている。マッチングサイトを１つの案として提案します。

〇鶴田委員

- 活動が、わかりづらいことについて、情報提供をするためのサイトを作成することは意味があると思う。県としての課題があり、資金不足については、深刻な問題であると思う。
- 景観学習について、議論はされていると思うが、助成金額を徐々に増やしていくのも良いと思う。

・　資金調達について、クラウドファンディングやふるさと納税のような寄付制度は活用できないのか。資金調達は長期的な課題であるから今後も議論すべきだと思う。
・　一般企業とのつながりについてのノウハウ取得は、積極的に市町村や県の担当者が企業に行き、議論を重ねればいいのではないかと思う。宣言書を作成し、ＰＲしてはどうか。
・　表彰については、マスコミを活用して、もっと大々的に周知をするべき。
・　小中高校生に対する支援について、人材の育成にとっては良いことだと思う。若い世代が強制されることなく、自然に参加できるようにするのが大切だと思う。子どもだけでなく、保護者も巻き込んで人材育成に繋げると良いのではないか。

○関西議長

・　次回に向けて実効性のあるものや、数字だけでなく目で見てわかる成果などを作っていく必要があるのかと感じる。様々な意見があり、県も人が限られているので、できること、できないことはあるかと思うが、目標設定（景観学習、クラウドファンディング、資金調達、広域連携など）をしっかりして、勉強しながら、具体的な動きをしていかなければいけないと思う。県だけでなく我々も考えていかなければならないと感じる。
・　この会議の後にどのように推進していったのか、次までにどのような進展があったのか、会議だけで終わらないようにしないといけない。
・ 県として、もっと行動で示してほしい。